

2019年 社長年頭挨拶

～「変える・変わる」→ 改革で「変革」へ～

<藤岡社長年頭挨拶 要旨>

皆さん、新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、新たな決意と共にご挨拶させていただきます。

1. 昨年の振り返り

昨年は、「変える・変わる」をキーワードに、カンパニー制をベースとした、スピーディな事業運営を実現し、愛知製鋼グループ社員としての心の支えとなる「A i c h i W a y」を策定しました。また、新本館の完全竣工に加え、事技職の働き方改革の基本の一環として自工程完結の考え方を導入しました。

2. 2019年の環境

当社を取り巻く環境を見てみると、自動車産業は「CASE」という言葉に集約される、「100年に一度の大転換期」に入っています。PHV、FCV、EVなどの次世代車の普及、クルマの「所有」から「シェア」への価値観の変化、自動運転化の進展などを想定して、従来の「クルマ」ではなく「モビリティ」にいかに関与していくか、頭を切り替えて対応することが必須となってきています。

この変化は、特殊鋼使用量の減少など、私たちのビジネスにはマイナス面もありますが、プラスとなる部分も多くあります。いかに時代を先読みしながら新たなビジネスチャンスを確実に掴み取っていくかが問われるようになっていきます。

3. 2019年の取り組み

2019年は「変える・変わる」を進化させ、「変革」を実現させるために、(1)人と組織の活性化による基盤強靱化の推進、そして、(2)未来への布石として、当社独自の付加価値を追求し、新たな価値を創造することに取り組めます。

(1) 人と組織の活性化による基盤強靱化

最初に、一人ひとりが仕事にやりがいを感じる風土、職場に変えていく必要があります。

そのために、現場職場では上司の顔、自分の立ち位置がわかる体制に、事技職場では個からチームで仕事をやり切る形に組織を変えました。この組織の中で、まずは基幹職がチームメンバーをサポートすることでメンバーから信頼を深めてもらう、という働き方改革を実践してください。

上司は現場に出て一人ひとりの声を真摯に聞き、**現地現物で親身に指導する**。その心・考え・行動が「A i c h i W a y」に沿っているかを常に自分自身に問いかけ、自分自身の言葉で話しかけましょう。

このような行動を通じて部下からも困りごとが気軽に相談できる、「何でも本音で言い合える」職場づくりを目指してください。

もちろん、ベースの活動としては**生産の安定・向上**は不可欠です。そのためには良品条件をきちんと定め、標準類に正しく落とし込み、日々実践するという、**モノづくりの基本を充実させる**ことを忘れてはいけません。

(2) 未来への布石 ～当社独自の付加価値を追求し、新たな価値を創造すること～

自動車業界の大転換は新たなビジネスチャンスをもたらします。私たちが受け継いできた「素材業のDNA」は、様々な分野・用途へ展開できる可能性を秘めています。そのために、絶えず**振り子を大きく振る**ことで、既存ビジネスの発想転換と新ビジネスの創出で、**新たな価値の創造**し、未来社会に貢献する準備を進めていきます。

4. 皆さんにお願いしたいこと

2019年は、「^{つちのとい}己亥」にあたります。この言葉には「来るべき時に向けて、様々な準備を進めている」という意味があります。まさに、自動車業界100年に一度の大転換期に立ち向かうための「**基盤強靱化の年**」です。

私たちを取り巻く現状について改めて見直し、発想の転換や付加価値を意識した働き方をしていくことが、「基盤強靱化」には必要です。そのうえで、心を一つに、力を一つに、「I W i l l」の精神でやり切ることで、この**大転換期を生き抜くための「変革」**を果たしていきましょう。

以上